

令和2年4月30日

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急要望書提出について

呉西地区交通まちづくり市民会議

北日本新聞 令和2年5月1日 28面

呉西交通まちづくり市民会議 要望書

公共交通に支援を

呉西地区交通まちづくり市民会議（松本久介会長）は30日、新型コロナウイルスの影響で利用者が減少している公共交通機関の経営支援を求め、県と氷見、高岡、砺波、南砺のJR城端線・氷見線の沿線4市に要望書を送った。

南砺市役所福野庁舎で



要望書の内容について説明する松本会長（右）

は、松本会長と古瀬正嗣副会長が田中幹夫市長に要望書を手渡した。松本会長は、同市の市営バス「なんバス」やスクールバスについて「運行にかかる費用の前払いを検討してほしい」と話した。

市長は「市民の足を守るにはどうするべきか検討したい」と述べた。

要望書には、新型コロナウイルス感染拡大に伴う交通事業者の経営調査と調査結果に基づく経営支援の2項目をまとめた。

同会議は県西部の公共交通機関の活性化を目指す六つの市民団体が構成。公共交通を軸としたまちづくりの実現に向けた活動をしている。

富山新聞 令和2年5月1日 27面

◆「交通事業者に支援を」

呉西地区交通まちづくり市民会議は30日、交通事業者の緊急支援を求める要望書を県などに提出した。JR城端線、氷見線、あいの風とやま鉄道、万葉線など鉄道会社をはじめ公共交通機関の新型コロナウイルスによる影響調査と、交通サービス継続のための経営支援を要請した。松本久介会長らが県や高岡、氷見、砺波、南砺市に要望書を提出した。